

2021年度「健街道」^{うらがみち} 浦賀道のたび（全5回）

江戸時代中期、江戸湾に入る船舶の監視や海難救助を行っていた下田奉行所が享保5年(1720)に浦賀へ移転した。

これにより、江戸～浦賀間の交通が頻繁になり、東海道から分かれる二本の道が整備された。

これが東と西の浦賀道です。

東浦賀道

保土ヶ谷宿から金沢八景までの金沢道東浦賀道は東海道・保土ヶ谷宿から分かれ、上大岡、能見台、金沢八景までの金沢道を通り、さらに船越(田浦)、十三峠を越え、逸見、大津を経て浦賀に入って行った。

幕末になると外国船の来航が多くなり、江戸と浦賀の間を早馬が行きかかったという。

金沢道は「鎌倉街道下道」の際に実施している為、今行程は金沢八景から浦賀奉行所までを歩くことにした。



西浦賀道



西浦賀道は東海道・戸塚宿から分かれ、笠間で鎌倉街道中道に合流し鎌倉に入る。その先は鎌倉七切り通しの一つ、名越切通しを通過して逗子・葉山に入り、葉山から三浦半島を横断。大津陣屋の先で東浦賀道に合流して浦賀奉行所に向かった。

今行程は江戸時代に浦賀奉行所に向う逆のコース(大津→戸塚)を辿ることにした。

2021年度は東西の浦賀道を歩くことにした。三浦半島の金沢八景を起点とし、東海岸沿いを通り浦賀奉行所まで(2回に分けて)と、大津から半島を横断して西海岸の逗子・葉山に抜け、鎌倉を通過して戸塚まで(3回に分けて)を予定します。

日本武尊と弟橘媛命の神話が残る三浦半島のシーサイドを満喫しながらの旅です。

今までとはちょっと違った自然が多く残る旧街道を楽しみながら歩きます、ご参加をお待ちしています。